

秋葉神社

歴史を通じて、火事は荻町にとって最大の脅威のひとつでした。村の木造家屋の茅葺き屋根は火が付きやすく、地元住民の最大限の努力にも関わらず、集落では何度も破壊的な火災が発生しています。2度の最大級の火災は1718年と1749年に発生したもので、どちらの場合も、荻町西部が特に大きな被害を受けました。このような不幸に終止符を打つべく、荻町西部の住民は、将来の災害から地域を守る神社の創建を決めました。大正時代（1912～1926）に神社の建物が再建され、神道の火の神、カグツチに正式に献じられるまで、この聖域はあまり目立ちませんでした。カグツチを祀る神道の主要な聖地、静岡県秋葉山本宮との関係を際立たせるため、秋葉神社と改名されたのもこの時です。現在、秋葉神社は荻町全体を守ると信じられており、今も住民に敬われています。